

# 第6章

# 整備スケジュールと財政等の見通し

## 6-1. 整備スケジュール

第5章で定めた各施策の整備スケジュールを策定します。

	3つの基本方針		中期【2020(R02)～2029(R11)】			長期【2030(R12)～】	評価項目			優先順位(評価)	
	6つの主要な施策		前期【2020(R02)～2024(R06)】	後期【2025(R07)～2029(R11)】			緊急度	効果	費用		
	整備施策										
1 良好な水環境の創出と環境資源の循環	①水洗化の促進										
	水洗化を促進するための広報活動		●	→			☆	☆	☆	1	
	②下水道資源の有効活用										
	下水道汚泥全量の利活用		●	→			☆	○	☆	1	
	下水道資源利活用の検討				◆	→	△	△	△	4	
2 暮らしに安心・安全を創出	③雨水整備の推進による雨に強いまちづくり										
	まちづくりと連携した雨水整備		●	→			○	○	○	2	
	④大規模地震に備えた下水道施設の耐震化										
	下水道施設の耐震計画の策定				◆	→	○	△	○	3	
	下水道施設の耐震化の実施						◆	→	△	△	4
	非常用資機材の確保		●	→			☆	☆	☆	1	
3 健全な事業経営による持続可能な下水道	⑤施設の適正な維持・管理										
	ストックマネジメント計画の策定		●	→			☆	☆	☆	1	
	管路施設の改築・更新			●	→		☆	○	△	2	
	ポンプ場・処理場施設の改築・更新		●	→			☆	☆	△	1	
	新技術・省エネ機器の導入推進				◆	→	△	○	△	3	
	広域化・共同化・最適化に関する検討		◆	→			○	○	○	2	
	民間活力の活用に関する検討						◆	→	△	△	4
	資産活用に関する検討						◆	→	△	△	4
	⑥経営基盤の強化と透明性の向上										
	健全経営が可能な投資計画の策定		●	→			☆	☆	☆	1	
下水道使用料の適正化		◆	→			○	☆	☆	1		
水洗化を促進するための広報活動		●	→			☆	☆	☆	1		
ホームページなどでの情報公開		●	→			☆	☆	☆	1		

注: 整備スケジュールは、次に示す状況を表しています。



項目	緊急度	効果	費用
☆	高い	高い	安価
○	中間	中間	中間
△	低い	低い	高価

優先度1	☆が2個以上
優先度2	☆が1個か全て○
優先度3	○が1つ以上
優先度4	全て△

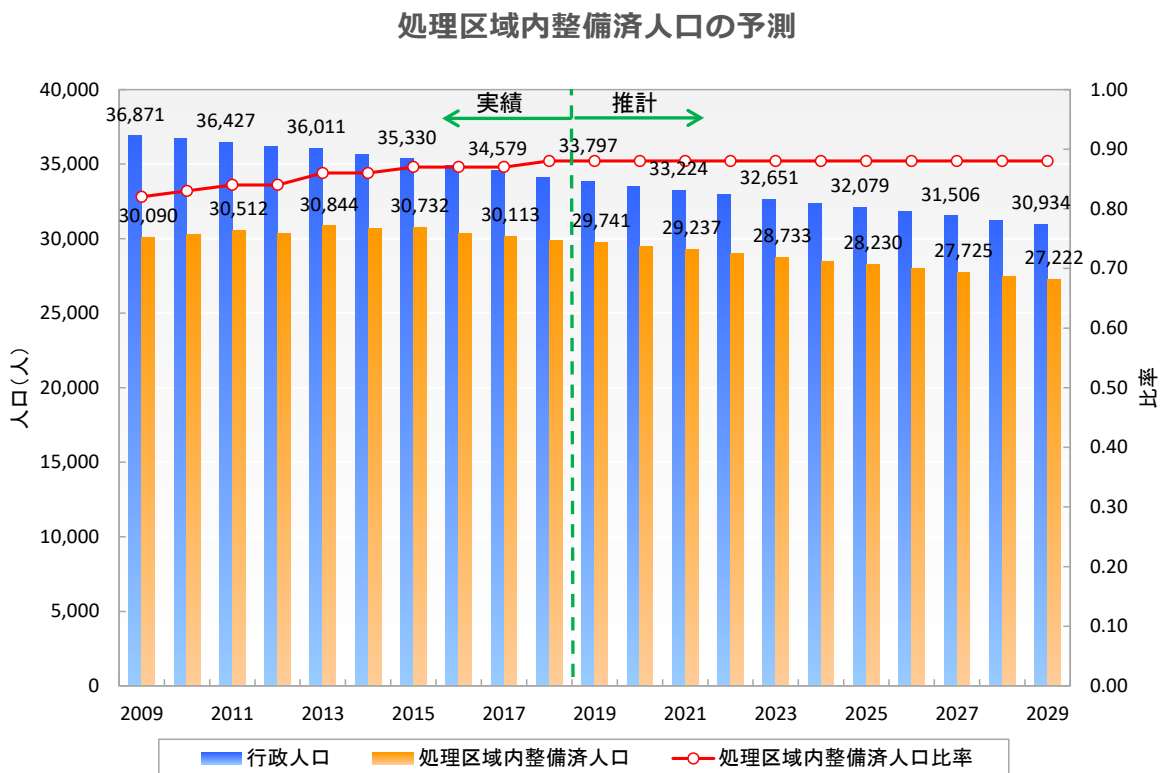
## 6-2. 財政等の見直し

本市の下水道事業に係る将来の事業環境見直しについて検討します。

### 6-2-1. 処理区域内整備済人口の予測

「伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略2015年（平成27年）9月」における行政人口の推計値をもとに将来行政人口を設定し、処理区域内整備済人口比率を乗じることによって処理区域内整備済人口を予測します。

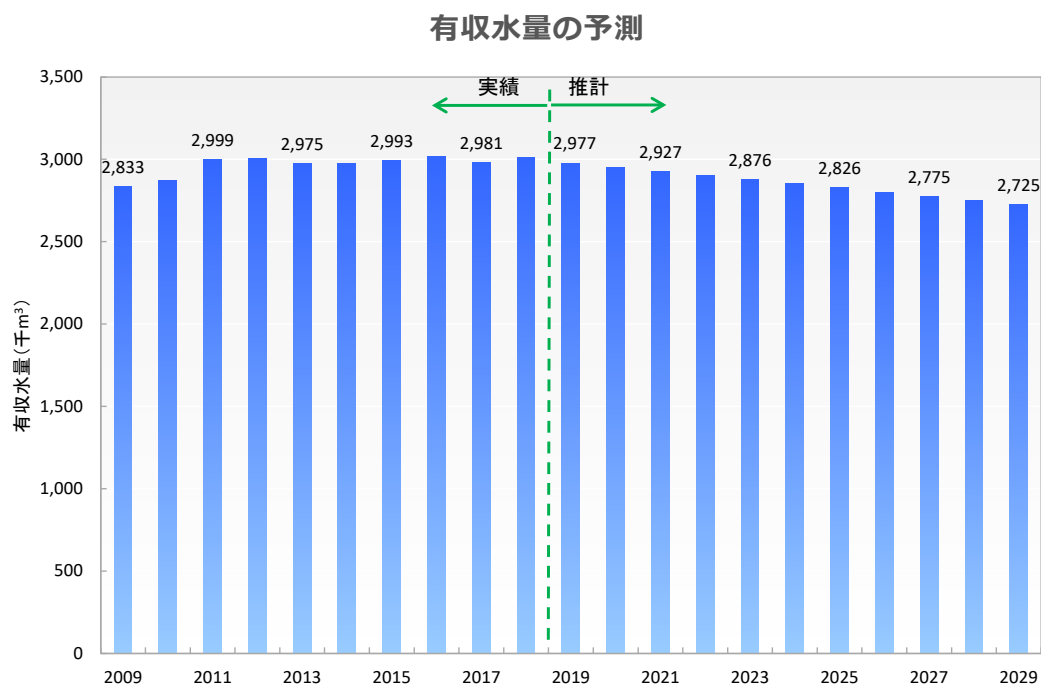
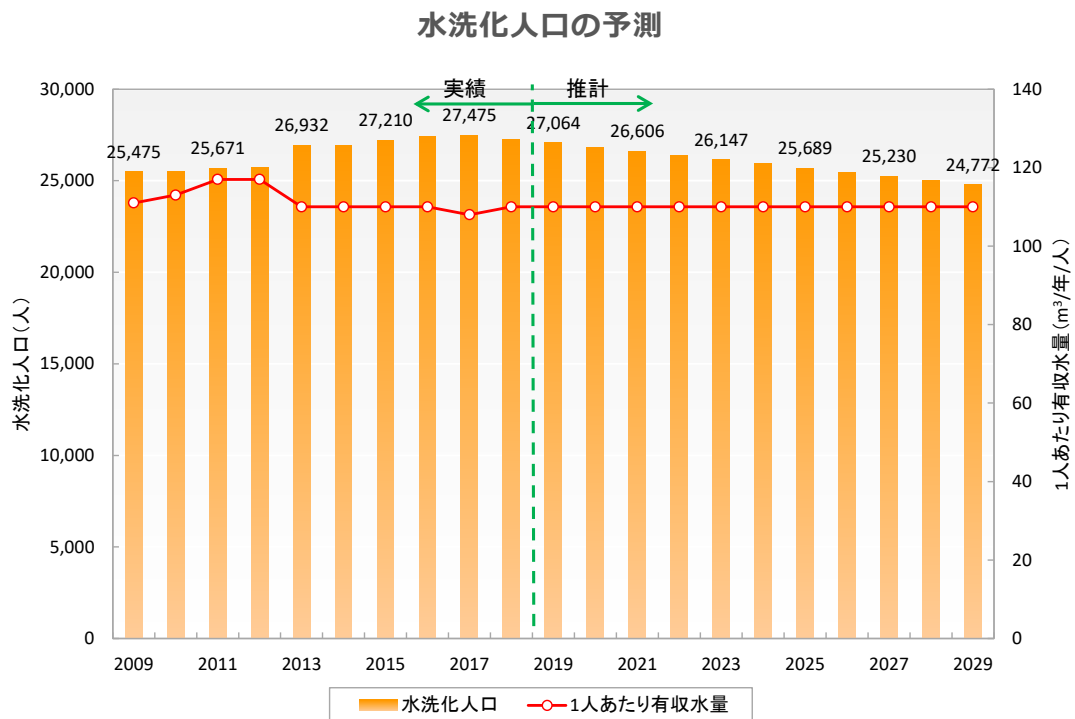
処理区域内整備済人口は、2018年度（平成30年度）末で約3万人となっていますが、10年後の2029年度（令和11年度）末には約2万7千人まで減少する見込みです。



## 6-2-2. 有収水量の予測

有収水量\*は、将来の水洗化人口に1人あたりの有収水量を乗じて予測します。

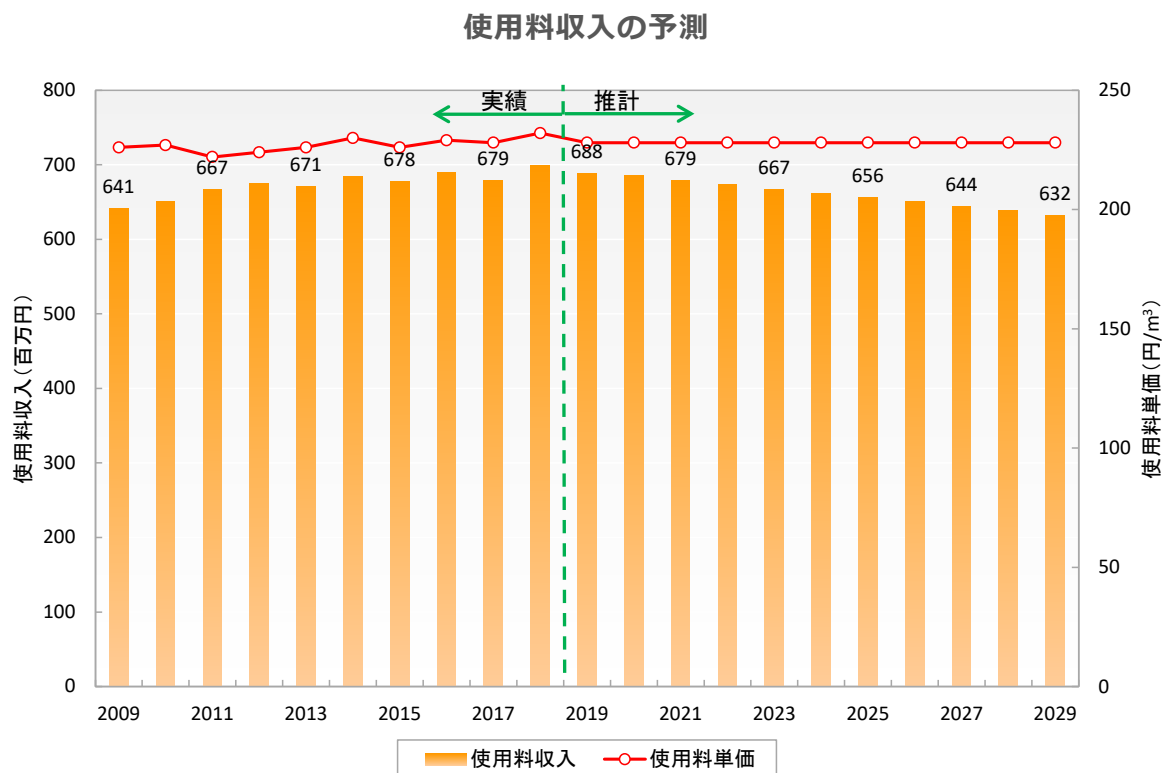
2018年度（平成30年度）で約3,000千 $m^3$ となっていますが、人口の減少に伴い、2029年度（令和11年度）には約2,700千 $m^3$ まで減少する見込みです。



### 6-2-3. 使用料収入の予測

使用料収入は、有収水量の将来予測結果に基づき、現行の使用料体系を維持するものとして予測します。

2018年度（平成30年度）では約700百万円となっていますが、人口減少の影響により2029年度（令和11年度）には約632百万円までの減少を見込んでいます。



## 6-2-4. 下水道施設

---

本市の下水道管路施設は1977年度（昭和52年度）から整備を開始しています。最も古い管路施設は約40年が経過し、標準耐用年数である50年が近づいています。今後は、2019年度（令和元年度）から2020年度（令和2年度）に策定するストックマネジメント計画に基づき、優先度の高い路線から点検・調査を実施し、計画的・効率的に改築更新を実施する予定です。

処理場・ポンプ場施設は、耐用年数の短い機械・電気設備を中心に長寿命化計画※（ストックマネジメント計画の前身となる改築更新計画）に基づいて計画的に改築更新を進めています。今後はストックマネジメント計画に基づいて優先度の高い設備を中心に効率的な改築更新を実施する予定です。

また、広域化や共同化、施設の最適化について検討を進めていきます。

## 6-2-5. 組織

---

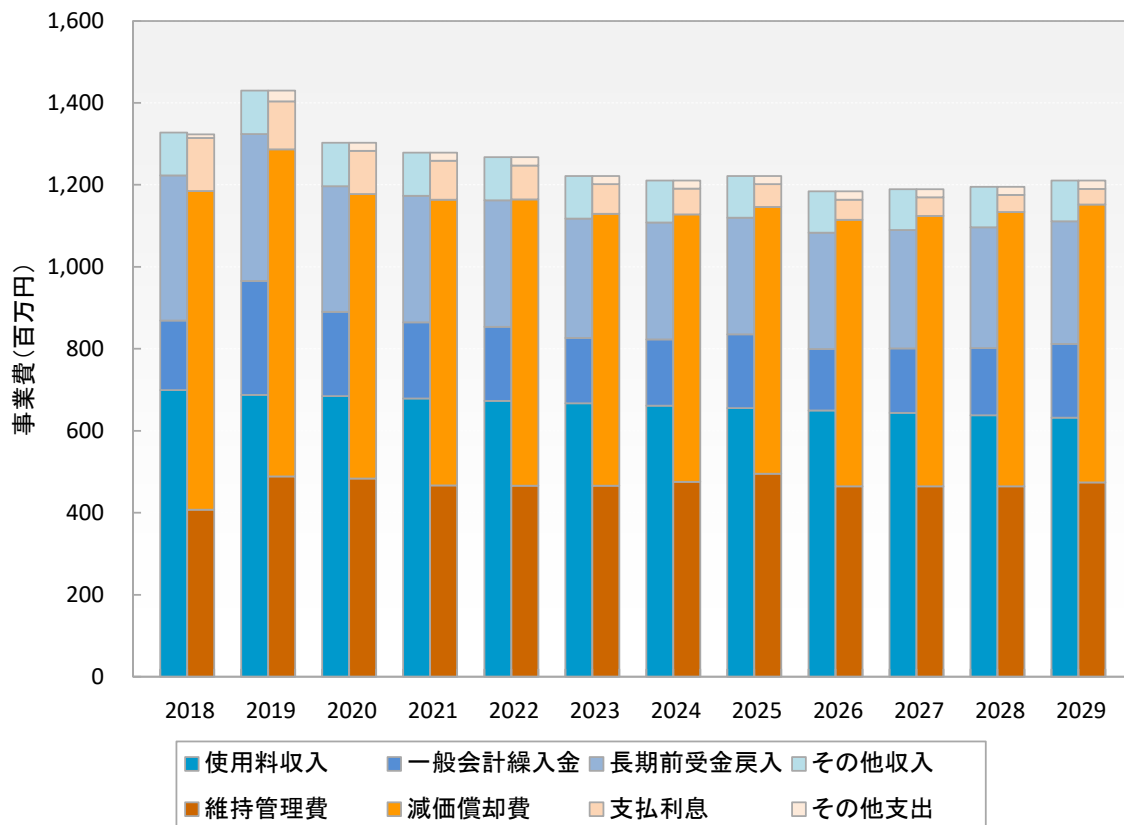
今後増加する老朽施設対策などを踏まえ、適切な人員数の確保と人材育成・技術伝承に努めるとともに、事業量と費用対効果を勘案し、必要に応じて民間活力の導入を考慮した最適な事業実施体制の構築を目指します。

## 6-2-6. 収益的収支の推移

収益的収支（下水道施設の維持管理に要する経費や企業債の利子償還等の支出とその財源となる収入）の推移を示します。

人口減少に伴う需要量（処理水量）の減少により使用料収入も減少する傾向となり、2029年度（令和11年度）には約632百万円（2018年度（平成30年度）よりマイナス67百万円）を確保する見込みとなります。施設の更新が予定されるため、減価償却費及び長期前受金戻入額は現在と同程度の水準で推移する見込みですが、整備当初に集中的に発行した企業債の償還が完了するため、支払利息は減少していきます。

収益的収支の推移

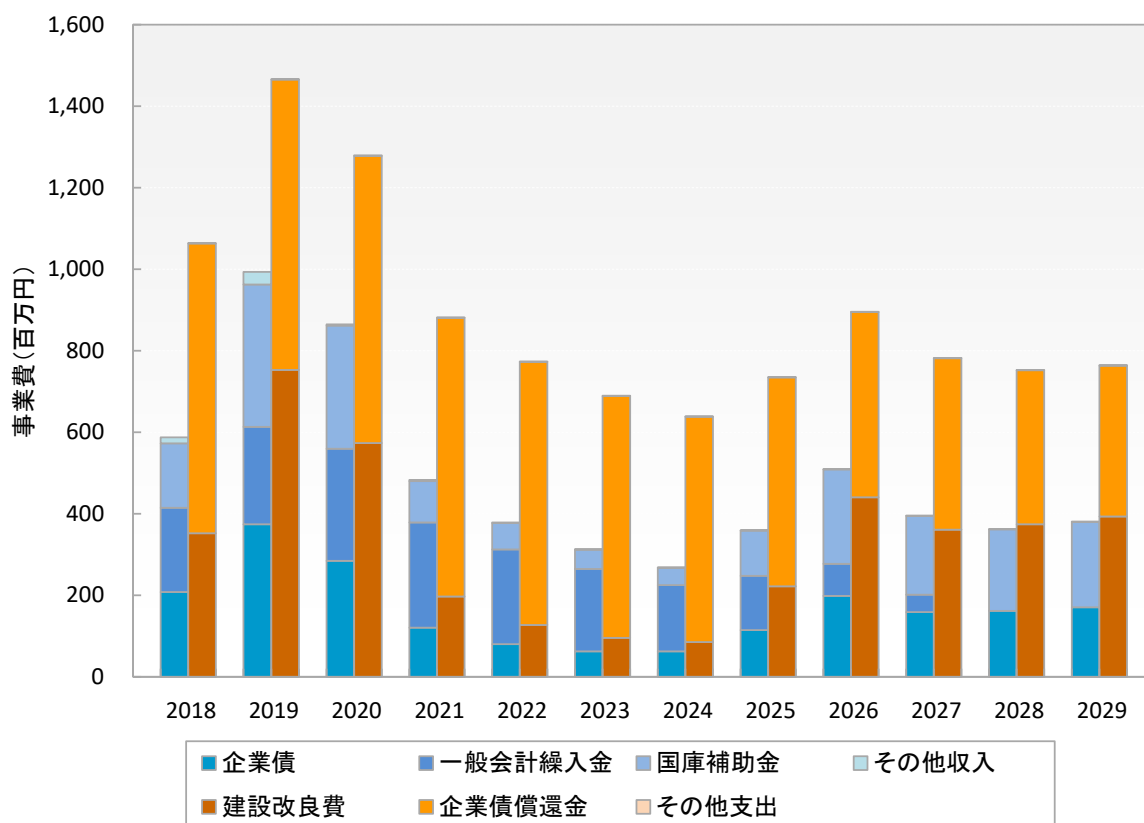


## 6-2-7. 資本的収支の推移

資本的収支（下水道施設の建設に要する経費や企業債の元金償還等の支出とその財源となる収入）の推移を示します。

2020年度（令和2年度）までは長寿命化計画に基づく処理場・ポンプ場施設の改築更新事業を実施する予定です。2021年度（令和3年度）以降は、ストックマネジメント計画に基づいた処理場・ポンプ場施設の改築更新事業に加え、管路施設の調査に基づき改築更新事業を進めていく予定です。整備当初に集中的に発行した企業債の償還が完了するため、企業債償還金は減少し、将来的な事業規模は年間約8億円となる見込みです。各年度で収入額が支出額を下まわるため、不足する額は内部留保資金等（現金支出を伴わない支出等）で補填する予定です。

資本的収支の推移

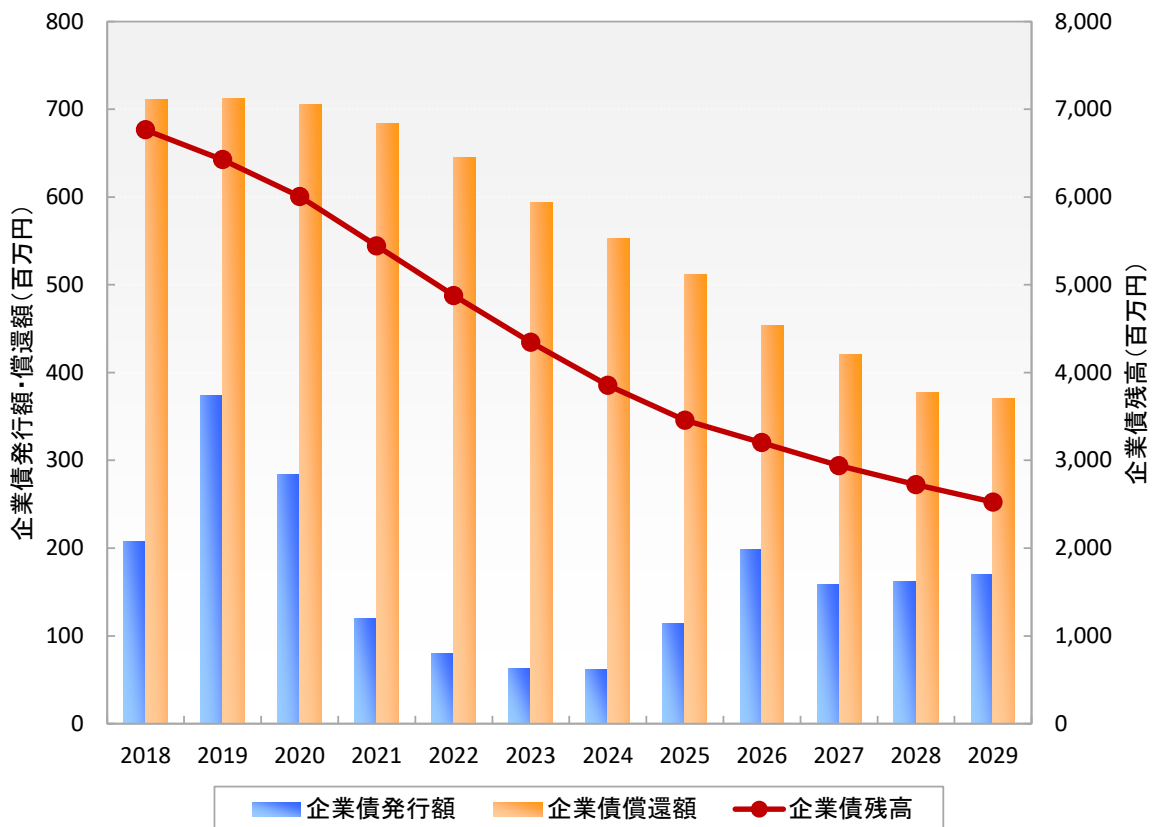


## 6-2-8. 企業債残高の推移

企業債残高の推移を示します。

企業債残高は整備当初に集中的に発行した企業債の償還が完了するため、2018年度（平成30年度）末の約68億円から大きく減少し2029年度（令和11年度）には約25億円となる見込みです。今後は改築更新事業にあわせて企業債の発行額も推移するものと考えられますが、事業の平準化を図り、償還額や経営状況を考慮した持続可能な経営に努めます。

企業債残高の推移





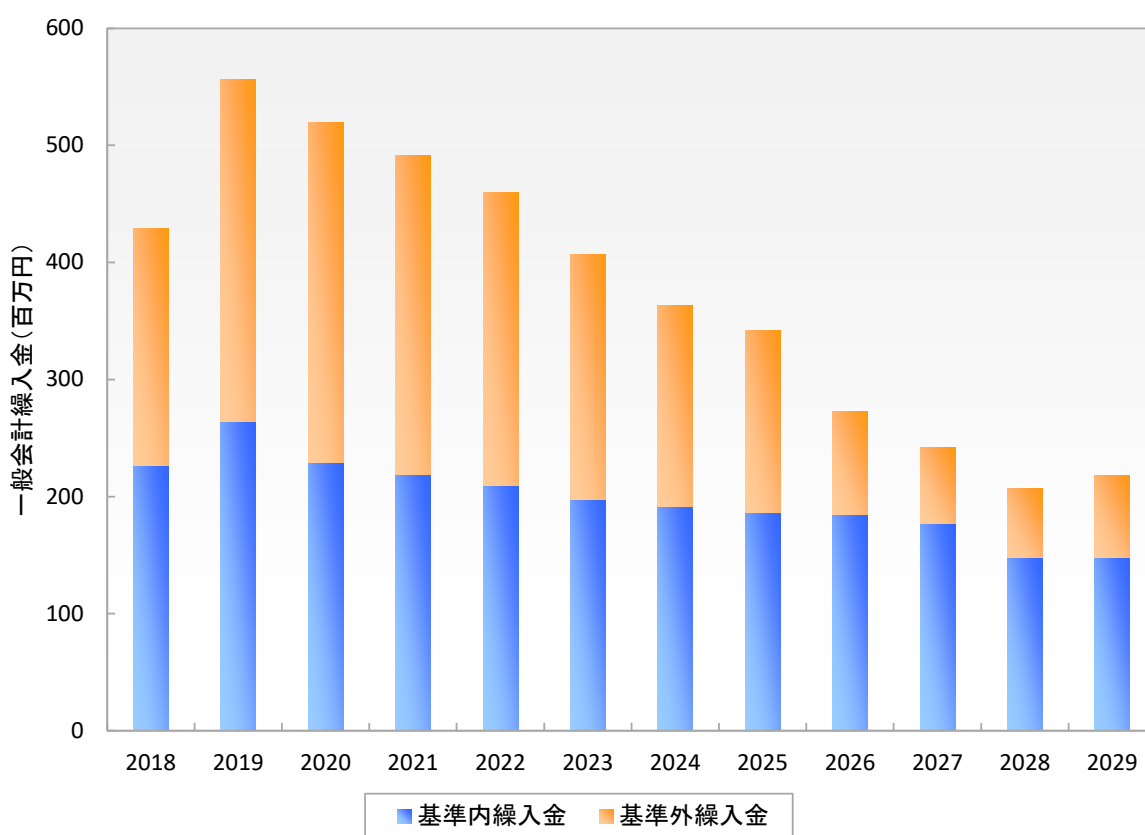
## 6-2-9. 繰入金の推移

一般会計からの繰入金の推移を示します。

現在は2から3億円程度の基準外繰入金を受けていますが、企業債元利償還金の減少に伴って縮減され、2029年度（令和11年度）には基準外繰入金は約7千万円まで減少する見込みです。

本ビジョンにおける経営健全化のための各施策を実施することで、より強固な経営基盤を築き、繰入金を削減します。

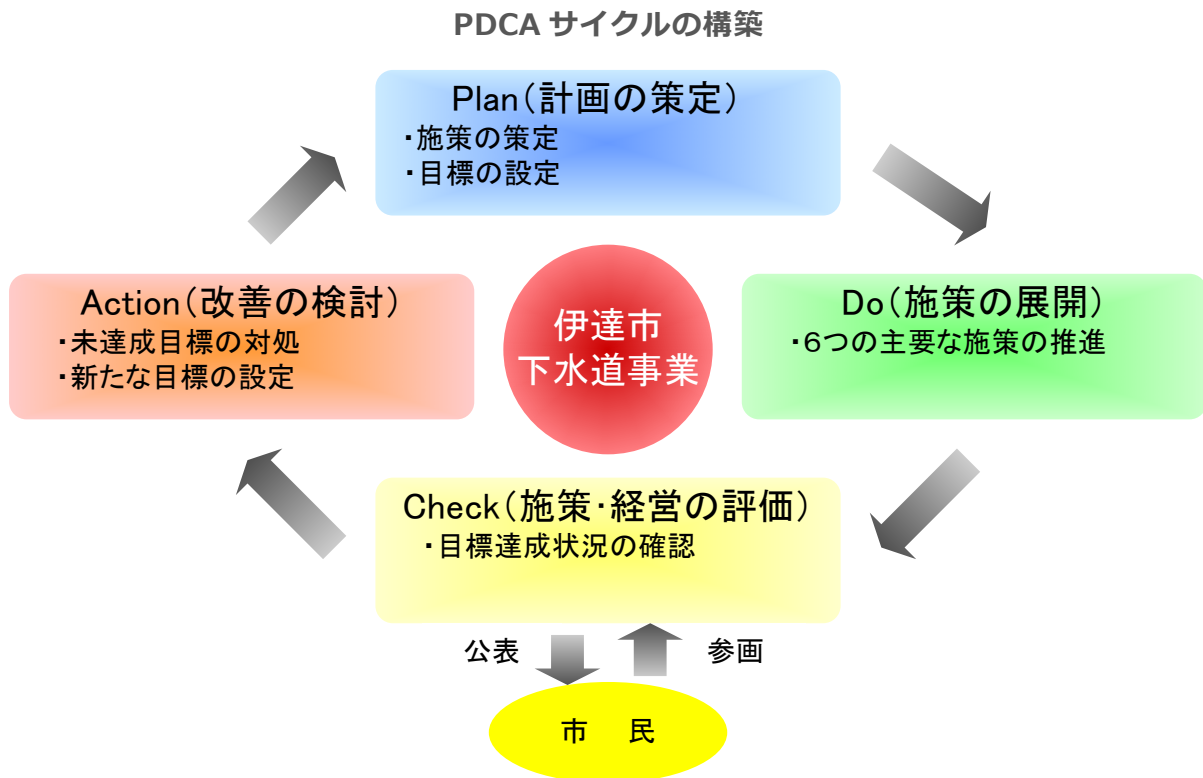
一般会計繰入金の推移



## 第7章

## 点検・見直し

下水道ビジョンに基づいた施策を展開するために、PDCAサイクルを構築し、事業の継続的な改善に努めていきます。具体的には、整備目標の達成状況や経営状況を分析し、市民の皆様公表するなど、点検・評価を行い、適時計画を修正するとともに、次期計画（2030年度（令和12年度）以降）に反映させることとします。



PDCAサイクルとは、プロジェクトの実行に際し、「計画をたて（PLAN）」、「実行し（DO）」、「その結果を評価し（CHECK）」、「問題点を改善する（ACTION）」という一連の工程を継続的に繰り返す仕組み（考え方）を指し、最後の改善を次の計画に結び付け、螺旋状に品質の維持・向上や継続的な業務改善活動などを推進するマネジメント手法のことです。